

田城城(田城)(市指定史跡)(鳥羽市岩倉町字城山)(九鬼岩倉神社)

田城城の築城年代は定かではありません。織田信長の水軍大将として勇名を覇せた九鬼嘉隆の祖父・泰隆が天文十年（1541）にこの城に拠り、伊勢国司北畠氏のために尽くし、二見七郷を与えられたと言われます。

その以前は、田城左馬之助が築いたとも伝えられます。

嘉隆は泰隆の次の当主定隆の次男として生まれ長男の浄隆が田城城を継ぎ、嘉隆は田城城の支城波切城主となりました。志摩は国衆が割拠しており13人衆と呼ばれるいわば合議制で成り立ち、九鬼氏はそのなかで最大の勢力を誇っていました。しかし、九鬼氏の勢力拡大を恐れた国衆連合は1560年（永禄3年）伊勢国司北畠具教の支援を受け九鬼氏を攻撃、浄隆と嘉隆は対抗するも浄隆は戦乱の最中病死、戦いに敗れ伊勢朝熊山に逃れます。その際に嘉隆は伊勢に勢力を伸ばしていた信長に仕えるようになったとされています。

1568年（永禄11年）信長は北畠具教の大河内城を攻め、次男の信雄を嫡子として送り込むことに成功します。その際嘉隆は志摩に攻め込み田城城を奪還することに成功し、志摩を支配を信長に許されます。

1576年（天正4年）7月13日石山本願寺に兵糧を運ぶ毛利氏の水軍とそれを防ぐ織田水軍の戦いが起こりますが、そのときの織田水軍の総大将は九鬼嘉隆でした。しかし、焙烙玉を使う毛利水軍に完敗。この戦いの敗戦により、信長は嘉隆に大船でしかも鉄鋼船を作ることを命令、1578年（天正6年）6月に完成、信長はこの船を見にわざわざ堺まで出向いたと信長公記には書かれています。

11月6日再び毛利水軍と戦い、嘉隆は大砲を使い完勝、大坂湾の制海権を手に入れます。

1579年（天正7年）正月5日堺の港から新年のあいさつに安土城に登城します。信長は「本願寺と和睦した今の内に故郷の伊勢に帰り、妻子とも会い、登城するのがよかろう。」と話し嘉隆は喜んで伊勢に戻ったと信長公記には書かれています。

本願寺攻めの功により嘉隆は3万5千石を有する大名となります。

1582年（天正10年）に至り、九鬼喜隆が兄浄隆の子澄隆を暗殺し、その後、この城は廃せられたと云われます。

城跡には、澄隆の怨霊を鎮めるために九鬼惣領権現が祠られています。

田城城案内板(鳥羽市教育委員会)

